

## 別紙様式 1

### 教科等研究会（中学校英語部会）

#### 令和3年度 研究活動のまとめ

#### 1 研究テーマ

主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して  
～バックワードデザインによる授業作りをとおして～

#### 2 研究経過

第1回	第2回	第3回
期日 6月7日（月） 人数 27人 場所 益城中学校	期日 9月28日（金） 場所 蘇陽中学校 授業者 濱田佳代教諭	期日 1月27日（木） 場所 益城中学校 内容 研修会

#### 3 研究の概要

##### (1) 研究の内容

今年度は「主体的に自分の考えや思いを英語で表現できる生徒の育成を目指して ～バックワードデザインによる授業作りをとおして～」という研究テーマのもと、研究、実践、授業改善等を行った。

##### ① 第1回教科等研究会

組織づくりを行い、学年部会で組織を構成し、研究授業の担当学年等を決めていった。

##### ② 第2回教科等研究会

蘇陽中学校で第2学年の授業研究会を行った。新型コロナウイルス感染予防の観点から、本研修会は zoom を活用し、ライブ配信を行った。生徒たちが不定詞を学習する中で、学んだ内容を即興で英語を表現し、**want to** + 動詞の原形を使いながら、自分が将来就きたい職業を英語で発表するという授業を参観した。授業では最初に帯活動として不定詞の復習を行い、基本文を押さえた上で、将来就きたい職業の発表を行うことができた。生徒たちは ALT に積極的に発表していた。

その後の研究会では、バックワードデザインの策定について、多くの質問や活発な意見が出され、有意義な会となった。具体的には、本時の目標を達成するために、帯活動をどのように活用するかということや、ウェビングマップについての活用法について話し合いを行った。まとめとして、上益城教育事務所の井島あゆみ指導主事から「中学校英語授業づくり10のポイント」を踏まえた授業づくりについての紹介があり、今回の研究授業でもその一部が活用された形となった。

今回は新型コロナウイルス感染予防の観点から zoom を初めて活用した。また、ブレイクアウトルームセッションを使い、3部会に分かれて意見を出し合ったり、質疑を行ったりすることができた。

##### ③ 第3回教科等研究会（中止）

益城中学校で実施予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となった。10月に御船中学校の中山晶貴教諭が授業実践を行ったものをビデオ録画していただき、今回視聴する予定であった。

##### (2) 成果と課題

○ バックワードデザインの策定について、「このプログラムが終わった時には英語でこんなことができるようになる」という明確なものをもって、毎時間の授業展開を意識するように実践を行うことができた。

○ 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、様々な研究会が中止と



なる中、2学期に研究授業とその授業研究会を zoom で行い、研鑽を深めることができた。

- 今年から新学習指導要領が完全実施となり、「小中連携」は非常に欠かせないものであるが、今年度も小学校外国語活動部会との合同夏季研修会が実施できなかった。小中連携の機会となるので、小中合同の研修を行うのが重要と考える。

#### 4 実践事例

##### (1) 学習構想案

### 山都町立蘇陽中学校 2年1組 英語科学習指導案

日時 令和3年9月28日(火) 第5校時  
 場所 2年1組教室  
 指導者 教諭 濱田 佳代

#### 1 単元構想

(1) 単元名 「Stage Activity1 A message to Myself in the Future」(東書 p48～p50)

(2) 単元の目標

- ① お互いの好きなことや得意なことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、不定詞を用いてまとまりのある文章を書くことができる。[知識および技能]
- ② お互いのことをさらに知るために不定詞を使って自分の好きなことや得意なことを伝え合って整理し、未来の自分へのメッセージを書くことができる。[思考力、判断力、表現力等]
- ③ 相手に配慮しながら、不定詞を使って自分の好きなことや得意なことについて伝え合って整理し、自分の未来へのメッセージを書こうとしている。[学びに向かう力、人間性等]

(3) 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<b>【書くこと】(イ)</b> ① 不定詞の特徴やきまりを理解している。【知識】 ② 簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書く技能を身につけている。【技能】	<b>【書くこと】(イ)</b> ① お互いの好きなことや得意なこと、向いていると思う仕事を理由とともに伝え合って整理し、自分に合うと思う仕事について書いている。	<b>【書くこと】(イ)</b> ① お互いの好きなことや得意なこと、向いていると思う仕事を理由とともに伝え合って整理し、自分に合うと思う仕事について書こうとしている。

(4) 期待される生徒の姿、単元の学習課題

単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)	
お互いのことをさらに知るために相手に配慮しながら好きなことや得意なことについて伝え合い、未来の自分へのメッセージを書くことができる生徒。	
単元を通じた学習課題	本単元で働かせる見方・考え方
未来の自分に向けて、今自分が得意なことや好きなことについて書こう。	読み手に配慮しながら、内容や表現を工夫して伝え合ったり書いたりすること。

(5) 指導と評価の計画(4時間取り扱い)

次	学習内容	評価(方法)		
		知・技	思	態
1 本時 (1/4)	○ 自分が好きなことや得意なことを紹介する表現を理解し、グループでお互いの情報を伝え合うことができる。	知 (リ-クジ-ト)		↓
2	○ お互いに向いていると思われる仕事について、提案することができる。	↓	思 (観察・発表)	
3	○ グループでもらったアドバイスを元に、未来の自分について考え、自分に向けてのメッセージを書くことができる。	技 (リ-クジ-ト)	↓	
4	○ 書いたメッセージをお互いに読んで、感想を書いたり友達と共有したりできる。	知・技 (リ-クジ-ト)	思 (リ-クジ-ト)	

## 2 生徒の実態

本学級は、全体的に明るく活発であり授業には積極的に取り組むことができるが、英語に対しては苦手意識を持った生徒もいて、理解に差が見られる。4月実施のNRTの結果より、「書くこと」の正答率が46%（全国48%）で下回っている。レディネストでは、不定詞の定着率42%であり低かった。そのため、授業終わりや単元の終わりに復習を行い、より定着を図る必要がある。

## 3 指導に当たっての留意点

本校研究テーマ「主体的に学び、粘り強く学習に取り組む生徒の育成」を実現するために、次の2点を重視する。

- ① 生徒が自ら取り組みたいと思う学習課題の設定  
不定詞を使って、テーマを「未来の自分へのメッセージ」とすることで、興味関心を持たせる。
- ② 主体的に取り組む時間、生徒自らが答えを導き出す時間の確保  
思考ツールを活用することで、生徒の考えをまとめ、表現しやすくする。

## 4 本時

### (1) 目標

お互いのことをさらに知るために自分がやりたいことについて、相手に配慮しながら好きなことや得意なことを伝え合うことができる。

### (2) 本時の展開

学習過程	学習活動	形態	教師の支援・指導上の留意事項
導入 (10分)	1 Warming Up ①greeting ②Review	全体	○基本的な挨拶やALTからの質問で授業を開始し、英語学習への意欲を高める。  ○教師のデモンストレーションを見ることで活動の進め方をつかみ、どんな会話をすれば伝えられるかを考えるように促す。
	2 introduction (1) ALTと教師のデモンストレーションを通して、本時の学習の予想を立て、めあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <b>めあて</b> お互いのことをさらに知るために友達に好きなことや得意なことについて伝え合うことができる。         </div>			
	(2) 自分の好きなことや得意なことについて、ペアで伝え合う。	ペア	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <b>学習課題</b> 未来の自分に向けて、今自分が得意なことや好きなことについて伝えよ         </div>			
展開 (30分)	3 activity (1) Step1 得意なことや好きなことを考える ・ウェビングマップに好きなことや得意なことを書く。 ・ペアで発表をする。 ・2回目は、ペアを変える。	個人  ペア	○中間指導では、教師が書いたウェビングマップを見せて、学習の見通しを持たせる。 ○内容や表現について、to+不定詞や今まで習った表現を使って会話をするようにする。 ○キーワードとなる言葉や相づちの確認を行う。
	(2) 自分が好きなことや得意なことについて話す。 ・使える表現があればウェビングマップに記入させる。 ・全体で発表をする	個人	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <b>評価基準B【観点 書くこと(イ)】</b>            ○ 不定詞の特徴やきまりを理解し、相手に配慮しながら伝えることができる。【知①】         </div>

	<p>【期待される生徒の姿】          思考ツールを活用し、今まで習った言語材料を使って、相手に配慮しながら話そうとしている。</p>		<p>【到達していない生徒への手立て】          ○机間指導を通して、効果的な既習表現などを全体で共有し、確認をする。          ○ペア活動を行うことで、生徒同士で教え合い活動を行う。</p>
まとめ (10分)	<p>4 話したことをワークシートに書く。          5 学びの木を記入する。(振り返り)</p>	個人	<p>自分が好きなことや得意なことについて様々な表現を用いて伝え合うことができたか、振り返る時間を設定する。</p>